

オンラインでもつながろう!

地域コミュニティアプリ「ピアッツァ」

登録者
4,000人
突破!

「ピアッツァ」は、利用者同士が身近なイベントや日々の暮らしに関する情報交換、不要品のやりとりなどを通じて、地域に密着したコミュニケーションを促進するためのアプリです。

「ピアッツァ」に登録して、ご近所さんと緩やかにつながってみませんか? 北区ホームページの最新情報を見ることもできます。

オンラインでつながる

- 悩み事を「教えて」と質問してみる
- おすすめの飲食店やくらしの情報など、地域の口コミ情報を投稿してみる

リアルでつながる

- 「お譲りします」でお譲り先が決まったら、直接お渡しする
- イベント情報をチェックして地域のイベントに参加してみる



「ピアッツァ」のダウンロードはこちら▶



PCの方はこちら▼

<https://www.lp.piazza-life.com/>

地域のイベント情報を簡単検索!

12月1日スタート! 日本初 生成AIを活用した自治体DXシステム「チラデジ」の実証実験

「チラデジ」は、北区が連携協定を結ぶPIAZZA株式会社が開発した、紙のチラシ情報が生成AIの活用により日付や概要が要約されデジタルデータに変換される日本初のサービス(特許出願中)です。スマホ等での情報収集を容易にするとともに地域活動の一層の活性化のため、リリースに向けた日本初の実証実験と一緒に取り組みます。

こんなことができます

- 日付からイベント情報を探せる
 - アート、子育てなどカテゴリ別にも探せる
- スマホ・PCから簡単にアクセスが可能です。ぜひアクセスして気になるイベントを探してください

※実証実験による利用状況やご意見等を踏まえ、機能や仕様変更となる可能性があります



チラデジへのアクセスはこちら▲



紙情報をAIで読み込み
自動で分類、デジタル化



スマホ/PCで検索!
日付や分野で探せる!

問 政策推進課 ☎06-6313-9907 FAX 06-6362-3821

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

私たちのSDGs④

地球規模の環境問題や社会課題の解決も、まずは一人ひとりの小さな実践の積み重ねから。毎月、区内の様々な活動をお伝えします。

Three Rivers (スリーリバーズ)



代表の仲村千絵さん

片手で着られるシャツ&ボタン アイデアで笑顔を増やしたい

けがや病気で片手が動かせず、服を着替えるのにひと苦労。外出も気が進まない。そんな経験はありませんか。「Three Rivers」(梅田1)では、片手で着られてボタンも楽に留められるストレッチシャツを企画し、製造販売しています。高齢化が進む中、「社会を支えてきた方々への恩返しになれば」と代表の仲村千絵さんは話します。

仲村さんの祖父は紳士服の仕立屋でした。ものづくりが好きな家庭で、お下がり服をリフォームしたり、日曜大工を手伝ったりして育ちました。

病院や施設で働くようになったある日、ポロシャツのボタンを留められずにいる子どもを見かけました。ボタン穴を広げ、大きめのボタンをゴムで緩く付けたところ、「即、成功」。コツをつかむと、普通のボタンも留められるようになりました。「小さなアイデアで、できることが増える」という手応え。後に商品化した「楽勝ボタン」の始まりです。

2017年、右手を骨折した仲村さんは、片手で着やすいシャツを探したものの見つからず、着脱のストレスが様々な意欲をそぐことも痛感。「自分で作るしかない」と思い立ちました。相談窓口に通い、縫製工場に片端から電話。東大阪の工場が親身になってくれました。生地を船場で、貝ボタンを奈良で仕入れ、袖ぐりと袖口がよく伸びて、「楽勝ボタン」を付けた前開きシャツが完成。21年夏からネットで販売しています。



「楽勝ボタン」の付いた色とりどりのストレッチシャツ

課題は知名度が低いこと。「かつの私のように、必死で探している人がいるはず。早く出会って、元気をお届けしたい」。繰り返して買ってくれる人の存在や、「助かってます」といった声が、背中を押します。

ホームページやSNSはこちら▶



あなたの夢は?

大阪の文化 おこしを若い世代に伝えたい



前田有世さん

梅田の真ん中で、おこしを作り続ける梅仙堂。店頭には、江戸時代から受け継がれてきたという大阪名物「天狗(てんぐ)おこし」と、2021年に前田さんが立ち上げたブランド「うめだOKOSHIファクトリー」の可愛いパッケージが並びます。

会社勤めを経てオーストラリアに留学していた前田さんが、梅仙堂に入社したのは4年前。社長を務める父の願いを知り「30歳になるし、一度手伝ってみようかなと思って」ところが、

直後に始まったコロナ禍で手土産需要は激減。「若い人が食べてくれる商品で立て直しを」と意気込むものの、知識も経験もなし。社内の理解も得られず、もがき続けました。

そんな中、中小企業の商品開発を支援する「大阪商品計画」に応募、採用されたのが転機となりました。専門家のアドバイスを受けながら、半年後の東京での展示会出品をめざすプログラム。ベテラン社員を説得して、新しい商品づくりが動き出しました。

「縁起のいいイメージがある天狗を活かそう。でも、怖い天狗でなく可愛い天狗を」と考えて浮かんだのが姉妹のこと。前田さんは三つ子の次女です。そこで天狗の三姉妹を自ら描いて新ブランドの「顔」に。そして、きなこなど3種類のひと口おこしを発売しました。今は、健康志向の高まりや外国人を意識した商品を準備中です。

SNSでの発信も始め、少しずつ声が掛かるようになりましたが、「まだまだ全然です」と前田さん。昨年、大阪の同業者が倒産したことに衝撃を受けました。「おこしを大阪の文化として伝えていきたい。でも老舗というだけでは守れない。歴史を大事にしながらも、時代に合わせた挑戦を続けていかなければ」

週1回は店頭に立ちます。買い物ついでに立ち寄る人も多い場所。「買っても買わなくても、みなさんいろいろ話をしてくれる。それが楽しいし、すごく参考になります」



天狗の三姉妹をデザインしたブランドも

北区の魅力は?

誰もが気さくに話しかけてくれるところ

うめだOKOSHIファクトリーのインスタグラム▶

夢・キタ・ひと ⑳

株式会社梅仙堂 営業企画室室長

前田有世さん

